

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 村重 勇輔

1. はじめに

この度、国際交流基金の助成により2017年3月26日～4月19日の3週間、イギリス・オックスフォードを訪問したことを報告いたします。

約2年半、硬式庭球部の部長として活動し、部活動引退後、あらかじめ決めていた英語の勉強を始めました。現在 OPETS というオンライン瞬間英作文クラブ、新大阪英語クラブ、English café に所属し、部活動同様に力を入れて英語学習に取り組んでいます。今回イギリス研修に行くことになったきっかけは OPETS の紹介でした。

2. 授業内容

毎日9時から12時半までディスカッション、スピーチのみの生徒参加型の授業が行われました。授業の際、意識したことは、いかに簡単な文章を作り話すか、いかに自分の脳みそを使って話すかということです。イギリスに行く前にも外国の方と話す機会はありませんでしたが、私は電子辞書に依存し、まったく自分の脳みそを使えていませんでした。受験で多くの人が難しい構文を勉強してきましたが、会話時に長く難しい文章を話そうとすると、自分自身の頭を困惑させてしまいます。また聞き手の不安も同様に増加させてしまいます。そこで私は授業に電子辞書を持っていかず、自分の頭の中の引き出しで勝負しました。またその際、Broken English(単語のみを発する、文章ではなく壊れた英語)にならないように、必ず文章を作ることを心がけました。

アウトプットする時間を毎日確実に確保できる分、毎日インプットする時間も設けました。その際、アウトプットする際はほとんどアウトプットに専念するため、調べることはほとんどしませんでした。ホームステイ先に帰宅後、言いたかった言い回し、分からなかった単語を調べ、次の日無理やりにでもそのフレーズ、もしくは単語をアウトプットしました。

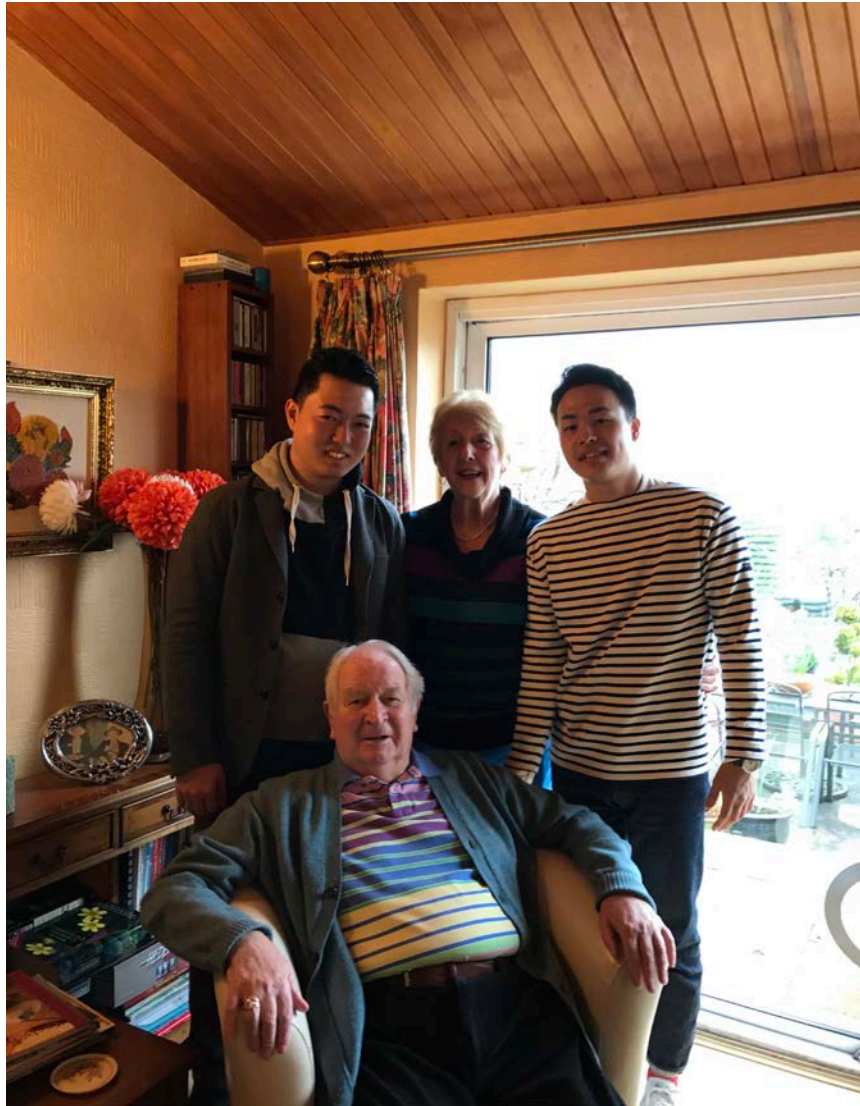
授業最終日にはスピーチ発表があり、この研修で学んだ「脳を使う」という考えをもとに、内容の要点だけを考え、メモを見ずにスピーチをやりとげました。



3. ホストファミリーについて

ホームステイ先は、私が 450 人目の宿泊人という、ベテランの老夫婦のご自宅でした。食後は携帯禁止・テレビ禁止で一日にどのようなことがあったのか報告するという、素晴らしい環境で3週間を過ごすことができました。

ホームステイ先は、家のように心を落ち着かせることのできる素晴らしい場所でしたが、文法の説明や難しい単語の言い換えなどのご指導もしていただき、私にとって第二の学校のようなものでした。イギリス滞在当初は自分の語学力に自信もなく、分からないことをごまかすように小さい声で話していましたが、ホストファミリーのおかげでミスを恐れず、大きな声で話すようになりました。ホストファミリーが毎日のように私に言ってくれた「たくさん失敗をなさい」という言葉を今後も大切にしていきたいと思えます。



4. おわりに

今回の短期研修で、「英語は勉強ではない」ということを学びました。もちろん TOEIC スコアアップのためのスキル、単語力、正しい文法の修得など、たくさん努力すべきことがあります。しかし英語は言語であり、口に出して使ってみる必要があると感じましたし、視野が広がりました。日本国内で英語を学べる場所を探してみると、数えきれないほど多く、また費用も無料もしくはとても安い値段で、そのような場所は存在します。日本に帰ってきた今、やるべきことが明確になり、英語という世界に友人を巻き込みながらのめりこんでいます。この「やるべきことが明確になった」という思いが、英語を学習する上での、一番の収穫かもしれません。

最後に、この海外研修にあたり、お世話になった方々に感謝しています。今後海外研修を考えている人に少しでも参考になればと思い、この文章を

作成しました。この国際交流基金助成事業という制度は素晴らしいもので積極的に活用すべきだと思います。

今回の経験を活かし、さらに精進していきたいと思います。

